



I に適する解答をマークせよ。ただし、同一問題で同じ記号の がある場合は同一の値がはいる。

(1)(a) $z = \cos \frac{2}{7}\pi + i \sin \frac{2}{7}\pi$, $w = z + z^2 + z^4$ とする。

$w + \bar{w} = \text{アイ}$, $w \cdot \bar{w} = \text{ウ}$ より

$\cos \frac{2}{7}\pi + \cos \frac{4}{7}\pi + \cos \frac{8}{7}\pi = \frac{\text{エオ}}{\text{カ}}$,

$\sin \frac{2}{7}\pi + \sin \frac{4}{7}\pi + \sin \frac{8}{7}\pi = \frac{\sqrt{\text{キ}}}{\text{ク}}$ を得る。

(b) $\alpha = \frac{-1 + \sqrt{3}i}{2}$, $\beta = \frac{\sqrt{3} - i}{2}$ とすると $|\alpha + \beta| = \frac{\sqrt{\text{ケ}} - \sqrt{\text{コ}}}{\text{サ}}$,

$|\alpha - \beta| = \frac{\sqrt{\text{シ}} + \sqrt{\text{ス}}}{\text{セ}}$ (ただし $\text{シ} > \text{ス}$) となる。

γ の実部が正で α, β, γ が複素数平面上で正三角形となるとき、

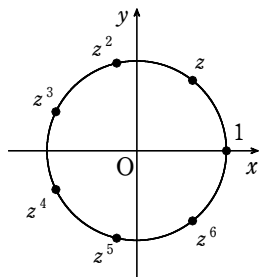
$\gamma = \frac{\text{ソ} + \sqrt{\text{タ}}}{\text{チ}} + \frac{\text{ツ} + \sqrt{\text{テ}}}{\text{ト}} i$ である。

【解答】 (1)(a) $w + \bar{w} = -1$, $w \cdot \bar{w} = 2$, $-\frac{1}{2}$, $\frac{\sqrt{7}}{2}$

(b) $\frac{\sqrt{6} - \sqrt{2}}{2}$, $\frac{\sqrt{6} + \sqrt{2}}{2}$, $\gamma = \frac{1 + \sqrt{3}}{2} + \frac{1 + \sqrt{3}}{2} i$

【解説】

(1)(a) $z = \cos \frac{2}{7}\pi + i \sin \frac{2}{7}\pi$, $w = z + z^2 + z^4 \dots \textcircled{1}$ とする。



$|z|=1$ より $z\bar{z}=1 \iff \bar{z} = \frac{1}{z} \dots \textcircled{2}$

また $z^7=1 \dots \textcircled{3}$ であり、 $z \neq 1$ より $z^6 + z^5 + z^4 + z^3 + z^2 + z + 1 = 0 \dots \textcircled{4}$

$\bar{w} = \bar{z} + \bar{z}^2 + \bar{z}^4$
 $= \frac{1}{z} + \frac{1}{z^2} + \frac{1}{z^4} \quad (\textcircled{2} \text{より})$
 $= z^6 + z^5 + z^3 \dots \textcircled{5} \quad (\textcircled{3} \text{をかけて})$

①, ④, ⑤より

$w + \bar{w} = (z + z^2 + z^4) + (z^6 + z^5 + z^3)$
 $= z^6 + z^5 + z^4 + z^3 + z^2 + z + 1 - 1$
 $= -1$

$w \cdot \bar{w} = (z + z^2 + z^4)(z^6 + z^5 + z^3)$
 $= z^7 + z^6 + z^4 + z^8 + z^7 + z^5 + z^{10} + z^9 + z^7$
 $= 3 + z + z^2 + z^3 + z^4 + z^5 + z^6 = 2$

よって w, \bar{w} を解に持つ2次方程式は解と係数の関係より

$t^2 + t + 2 = 0 \iff t = \frac{-1 \pm \sqrt{7}i}{2}$

$w = z + z^2 + z^4$ において $\sin \frac{4}{7}\pi > \sin \frac{6}{7}\pi$ なので、

$\text{Im}(w) = \sin \frac{2}{7}\pi + \sin \frac{4}{7}\pi + \sin \frac{8}{7}\pi$
 $= \sin \frac{2}{7}\pi + \sin \frac{4}{7}\pi - \sin \frac{6}{7}\pi > 0$

であるから、

$w = \frac{-1 + \sqrt{7}i}{2}$

したがって

$\text{Re}(w) = \cos \frac{2}{7}\pi + \cos \frac{4}{7}\pi + \cos \frac{8}{7}\pi = -\frac{1}{2}$

$\text{Im}(w) = \sin \frac{2}{7}\pi + \sin \frac{4}{7}\pi + \sin \frac{8}{7}\pi = \frac{\sqrt{7}}{2}$

(b) $\alpha = \frac{-1 + \sqrt{3}i}{2}$, $\beta = \frac{\sqrt{3} - i}{2}$ とすると

$|\alpha + \beta| = \left| \frac{-1 + \sqrt{3}i}{2} + \frac{\sqrt{3} - i}{2} \right| = \left| \frac{\sqrt{3} - 1}{2} + \frac{-1 + \sqrt{3}i}{2} i \right|$
 $= \left| \frac{\sqrt{3} - 1}{2} \right| \cdot |1 - i| = \frac{\sqrt{3} - 1}{2} \cdot \sqrt{2} = \frac{\sqrt{6} - \sqrt{2}}{2}$

$|\alpha - \beta| = |\beta - \alpha| = \left| \frac{\sqrt{3} - i}{2} - \frac{-1 + \sqrt{3}i}{2} \right|$
 $= \left| \frac{\sqrt{3} + 1}{2} - \frac{\sqrt{3} + 1}{2} i \right| = \left| \frac{\sqrt{3} + 1}{2} \right| \cdot |1 - i|$
 $= \frac{\sqrt{6} + \sqrt{2}}{2}$

また、 α, β, γ が複素数平面上で正三角形となるとき、

$\frac{\gamma - \alpha}{\beta - \alpha} = \cos(\pm 60^\circ) + \sin(\pm 60^\circ) = \frac{1}{2} \pm \frac{\sqrt{3}}{2} i$

$\gamma - \alpha = (\beta - \alpha) \left(\frac{1}{2} \pm \frac{\sqrt{3}}{2} i \right)$
 $= \frac{\sqrt{3} + 1}{2} (1 - i) \left(\frac{1}{2} \pm \frac{\sqrt{3}}{2} i \right)$
 $= \pm \frac{2 + \sqrt{3}}{2} \mp \frac{1}{2} i \quad (\text{複号同順})$

$\gamma = \frac{1 + \sqrt{3}}{2} + \frac{1 + \sqrt{3}}{2} i$ または $-1 - i$

実部が正のものだから

$\gamma = \frac{1 + \sqrt{3}}{2} + \frac{1 + \sqrt{3}}{2} i$

(2) 1から8までの8個の数から異なる数を選んで並べることにより2桁以上4桁以下の正の整数をつくる。このようにしてつくられた正の整数の集合をAとする。Aの要素であり、どの2つの桁の和も9にならない数からなる集合をA₁とする。Aの要素であり、3桁以下の数でどの2つの桁の和も9にならない数からなる集合をA₂とする。

1) $x \in A_1$ であることは、 $x \in A_2$ であることの ア

2) Aの要素の個数は イウエオ 個である。

3) A₁の要素の個数は カキク 個であり、A₂の要素の個数は ケコサ 個である。

4) Aの要素で小さい方から数えて600番目の数は シスセソ である。

ただし、 ア は以下の中から選択せよ。

- (a) 必要条件であるが、十分条件ではない
- (b) 十分条件であるが、必要条件ではない
- (c) 必要十分条件である
- (d) 必要条件でも、十分条件でもない

【解答】 1) (a) 2) 2072通り 3) 624通り, 240通り 4) 1874

【解説】

(2)

1) $x \in A_1 \implies x \in A_2$ は偽

(反例はAの要素で4桁のもの)

$x \in A_2 \implies x \in A_1$ は真

であるから $x \in A_1$ であることは $x \in A_2$ であるための必要条件であるが十分条件でない。したがって、(a)

2) Aの要素の個数は1~8の8個の数を順に並べて

4桁のもの: $8 \times 7 \times 6 \times 5 = 1680$

3桁のもの: $8 \times 7 \times 6 = 336$

2桁のもの: $8 \times 7 = 56$

だから、すべてを足すと2072通り。これがAの要素の個数である。

3) 1から8までの8個の数から異なる数を選んで並べ、2桁以上、4桁以上の正の整数をつくる時、ある数Nを並べると、次に並べる数は、Nと9-Nを除く6通り、以下同様に2種類ずつ並べることができる数が減っていくので、

4桁のもの: $8 \times 6 \times 4 \times 2 = 384$

3桁のもの: $8 \times 6 \times 4 = 192$

2桁のもの: $8 \times 6 = 48$

だから、すべて足して624通り。これがA₁の要素の個数である。

また、A₂は2桁、3桁のものを足して240通り。これがA₂の要素の個数である。

4) Aの要素で小さい方から数えて600番目のものは、

2桁の数: 56通り

3桁の数: 336通り

4桁で千の位が1のもの... $7 \times 6 \times 5 = 210$ 通り

これらの和が602通りである。つまり、千の位が1のものうち、大きい方から3番目のものを考えればよい。

1876, 1875, 1874, ...

となるので求める数は 1874。

(3) 下図は

$$\begin{cases} x = \sin 8\theta \\ y = \sin 6\theta \end{cases} \quad (0 \leq \theta \leq \pi)$$

であらわされるリサージュ曲線 L で、下図の実線部分は点 A (0, 1) を通る曲線 L の一部である。また、点 B (0, β) ($-1 < \beta < 0$) は L 上の点である。

点 A では $\theta = \frac{\text{ア}}{\text{イ}}\pi$ であり、B では小さい順に $\theta = \frac{\text{ウ}}{\text{エ}}\pi$, $\frac{\text{オ}}{\text{カ}}\pi$ で、

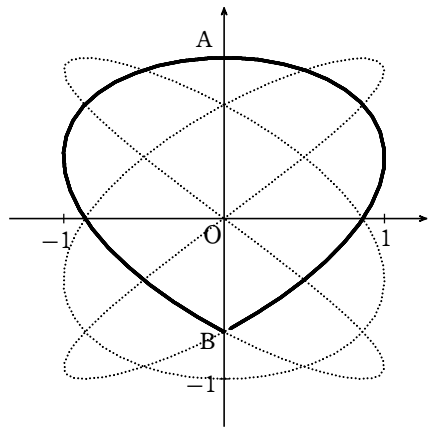
$\beta = \frac{\text{キ}}{\text{ケ}}\sqrt{\frac{\text{ク}}{\text{ケ}}}$ である。

実線で囲まれた図形のうち $x \geq 0$ となる部分の面積は、 $x(\theta) = \sin 8\theta$, $y(\theta) = \sin 6\theta$ とすると

$$\int_{\beta}^1 x dy = \int_b^t \text{コ} (\sin \text{サ}\theta + \sin \text{シス}\theta) d\theta$$

と表すことができる。ここで、 $b = \frac{\text{セ}}{\text{ソ}}\pi$, $t = \frac{\text{ア}}{\text{イ}}\pi$ である。

よって実線で囲まれた図形全体の面積は $\frac{\text{タチ}}{\text{テ}}\sqrt{\frac{\text{ツ}}{\text{テ}}}$ となる。



【解答】 $\theta = \frac{3}{4}\pi, \theta = \frac{5}{8}\pi, \frac{7}{8}\pi, \beta = \frac{-\sqrt{2}}{2}, \int_b^t 3(\sin 2\theta + \sin 14\theta) d\theta, b = \frac{7}{8}\pi, \frac{12\sqrt{2}}{7}$

【解説】

(3) L: $\begin{cases} x = \sin 8\theta & \dots \text{①} \\ y = \sin 6\theta & \dots \text{②} \end{cases} \quad (0 \leq \theta \leq \pi)$

① より、 $x=0$ となるのは

$$\theta = 0, \frac{\pi}{8}, \frac{\pi}{4}, \frac{3}{8}\pi, \frac{1}{2}\pi, \frac{5}{8}\pi, \frac{3}{4}\pi, \frac{7}{8}\pi, \pi$$

このとき、② よりこれに対応する y の値は順に

$$0, \frac{\sqrt{2}}{2}, -1, \frac{\sqrt{2}}{2}, 0, -\frac{\sqrt{2}}{2}, 1, -\frac{\sqrt{2}}{2}, 0$$

となる。したがって、点 A(0, 1) となるのは $\theta = \frac{3}{4}\pi$ であり、B(0, β) ($-1 < \beta < 0$) は

$\beta = -\frac{\sqrt{2}}{2}$ であり、このときの θ は小さい順に $\theta = \frac{5}{8}\pi, \frac{7}{8}\pi$ である。

また、実線で囲まれた図形のうち $x \geq 0$ となる部分の面積 S は点 $(x(\theta), y(\theta))$ が図のように進行することから、

$$\begin{aligned} S &= \int_{y=\beta}^{y=1} x dy \\ &= \int_{\theta=\frac{7}{8}\pi}^{\theta=\frac{3}{4}\pi} x(\theta) \cdot \frac{dy}{d\theta} d\theta \end{aligned}$$

ここで、 $x(\theta) = \sin 8\theta$, $\frac{dy}{d\theta} = 6 \cdot \cos 6\theta$

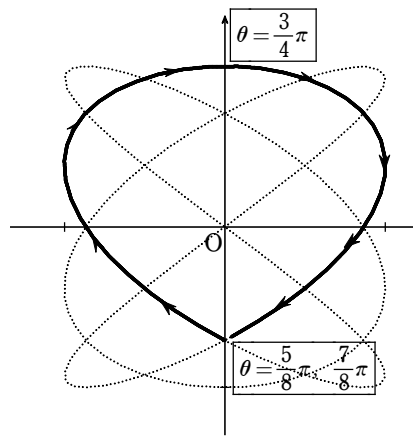
だから、

$$\begin{aligned} S &= \int_{\theta=\frac{7}{8}\pi}^{\theta=\frac{3}{4}\pi} 6 \sin 8\theta \cos 6\theta d\theta \\ &= \int_{\theta=\frac{7}{8}\pi}^{\theta=\frac{3}{4}\pi} 3(\sin 14\theta + \sin 2\theta) d\theta \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} &= \left[-\frac{3}{14} \cos 14\theta - \frac{3}{2} \cos 2\theta \right]_{\theta=\frac{7}{8}\pi}^{\theta=\frac{3}{4}\pi} \\ &= \frac{6\sqrt{2}}{7} \end{aligned}$$

よって実線で囲まれた図形全体の面積は、対称性に注意して、

$$2S = \frac{12\sqrt{2}}{7}$$



II に適する解答をマークせよ。ただし、同じ記号の がある場合は同一の値がはいる。

関数 $f(x)$ を用いて漸化式が $x_{n+1} = f(x_n)$ ($n=1, 2, \dots$) で与えられる数列 $\{x_n\}$ について考える。

(1) $x_1 = 3, f(x) = \frac{3}{4}x + 3$ とすると $x_2 = \frac{\text{アイ}}{\text{ウ}}$, $x_3 = \frac{\text{エオカ}}{\text{キク}}$ となり、

$$\lim_{n \rightarrow \infty} x_n = \frac{\text{ケコ}}$$

(2) $x_1 = 3, f(x) = \frac{3}{4}[x] + 3$ とすると $x_2 = \frac{\text{アイ}}{\text{ウ}}$, $x_3 = \frac{\text{サシ}}{\text{ス}}$ となり、

$$\lim_{n \rightarrow \infty} x_n = \frac{\text{セソ}}{\text{タ}}$$

ただし、実数 a に対して $[a]$ は a を超えない最大の整数とする。

(3) $x_1 = \frac{1}{2}, f(x) = \frac{3x}{1+x}$ とすると、 $x_5 = \frac{\text{チツ}}{\text{テト}}$, $x_9 = \frac{\text{ナニヌネ}}{\text{ノハヒフ}}$ となり、

$$\lim_{n \rightarrow \infty} x_n = \frac{\text{ヘ}}$$

(4) $f(x) = ax(1-x)$ (a は実数) とする。 $0 \leq x_1 \leq 1$ を満たすすべての x_1 に対して $0 \leq x_n \leq 1$ ($n=2, 3, \dots$) が成り立つための必要十分条件は $\leq a \leq$ である。このうちで $x_1 = x_2$ となる 0 以外の x_1 が存在するのは $< a \leq$ のとき

で、このような x_1 は a を用いて $x_1 = \frac{\text{ム}}{\text{メ}} - \frac{\text{メ}}{a}$ と表わされる。同様に $x_1 < x_2$, $x_3 = x_1$ を満たす x_1 が存在するのは $< a \leq$ のときで、 x_1 は a を用いて

$$x_1 = \frac{a + \frac{\text{ヤ}}{\text{ユ}} - \sqrt{(a + \frac{\text{ユ}}{\text{ユ}})(a - \frac{\text{ヨ}}{\text{ヨ}})}}{2a}$$

【解答】 (1) $x_2 = \frac{21}{4}, x_3 = \frac{111}{16}, \lim_{n \rightarrow \infty} x_n = 12$ (2) $x_2 = \frac{21}{4}, x_3 = \frac{27}{4}, \lim_{n \rightarrow \infty} x_n = \frac{39}{4}$

(3) $x_5 = \frac{27}{14}, x_9 = \frac{2187}{1094}, \lim_{n \rightarrow \infty} x_n = 2$

(4) $0 \leq a \leq 4, 1 < a \leq 4, 1 - \frac{1}{a}, 3 < a \leq 4, \frac{a+1-\sqrt{(a+1)(a-3)}}{2a}$

【解説】

(1) $x_{n+1} = f(x_n)$ ($n=1, 2, \dots$) で与えられる数列 $\{x_n\}$ に対し、

$$x_1 = 3, f(x) = \frac{3}{4}x + 3 \text{ のとき}$$

$$x_{n+1} = \frac{3}{4}x_n + 3 \iff x_{n+1} - 12 = \frac{3}{4}(x_n - 12)$$

と変形できるから、一般項は

$$x_n - 12 = (x_1 - 12) \left(\frac{3}{4}\right)^{n-1} = -9 \cdot \left(\frac{3}{4}\right)^{n-1}$$

$$x_n = 12 - 9 \cdot \left(\frac{3}{4}\right)^{n-1}$$

と求まる。よって、

$$x_2 = \frac{21}{4}, x_3 = \frac{111}{16}, \lim_{n \rightarrow \infty} x_n = 12.$$

(2) $x_1 = 3, f(x) = \frac{3}{4}[x_n] + 3$ のとき

$$x_{n+1} = \frac{3}{4}[x_n] + 3$$

となるので、

$$x_2 = \frac{3}{4}[x_1] + 3 = \frac{3}{4} \cdot [3] + 3 = \frac{21}{4}, \quad x_3 = \frac{3}{4}[x_2] + 3 = \frac{3}{4} \cdot \left[\frac{21}{4}\right] + 3 = \frac{27}{4}$$

となる。さらに続けると、

$$x_4 = \frac{3}{4} \cdot \left[\frac{27}{4}\right] + 3 = \frac{3}{4} \cdot 6 + 3 = \frac{15}{2}, \quad x_5 = \frac{3}{4} \cdot \left[\frac{15}{2}\right] + 3 = \frac{3}{4} \cdot 7 + 3 = \frac{33}{4}$$

$$x_6 = \frac{3}{4} \cdot \left[\frac{33}{4}\right] + 3 = \frac{3}{4} \cdot 8 + 3 = 9, \quad x_7 = \frac{3}{4} \cdot [9] + 3 = \frac{3}{4} \cdot 9 + 3 = \frac{39}{4}$$

$$x_8 = \frac{3}{4} \cdot \left[\frac{39}{4}\right] + 3 = \frac{3}{4} \cdot 9 + 3 = \frac{39}{4}$$

となるので、 $x_n (n \geq 7)$ 以降、この数列は $x_n = \frac{39}{4}$ となる。したがって、

$$\lim_{n \rightarrow \infty} x_n = \frac{39}{4}$$

(3) $x_1 = \frac{1}{2}, f(x) = \frac{3x}{1+x}$ のとき

$$x_{n+1} = \frac{3x_n}{1+x_n}$$

ここで、帰納的に $x_n \neq 0$ であるから、この漸化式の両辺の逆数をとると、

$$\frac{1}{x_{n+1}} = \frac{1}{3} \cdot \frac{1}{x_n} + \frac{1}{3} \iff \frac{1}{x_{n+1}} - \frac{1}{2} = \frac{1}{3} \left(\frac{1}{x_n} - \frac{1}{2} \right)$$

と変形できる。数列 $\left\{ \frac{1}{x_n} - \frac{1}{2} \right\}$ が初項 $\frac{1}{x_1} - \frac{1}{2} = \frac{3}{2}$ 、公比が $\frac{1}{3}$ の等比数列をなすこと

がわかるので、一般項は

$$\frac{1}{x_n} - \frac{1}{2} = \frac{3}{2} \left(\frac{1}{3} \right)^{n-1} \iff x_n = \frac{2}{3 \left(\frac{1}{3} \right)^{n-1} + 1}$$

と求まる。したがって、

$$x_5 = \frac{27}{14}, x_9 = \frac{2187}{1094}, \lim_{n \rightarrow \infty} x_n = 2.$$

(4) $f(x) = ax(1-x)$ のとき、 $x_{n+1} = ax_n(1-x_n)$ で、 $0 \leq x_1 \leq 1$ を満たすすべての x_1 について $0 \leq x_n \leq 1$ が成り立つためには、 $0 \leq x_2 \leq 1$ が必要。

この条件は、

$$0 \leq x_2 = ax_1(1-x_1) \leq 1$$

すなわち、 $0 \leq x \leq 1$ における $y = ax(1-x)$ の値域を考えればよい。 $x=0, 1$ のとき最

小値 $0, x = \frac{1}{2}$ のとき最大値 $\frac{a}{4}$ をとるので、

$$0 \leq \frac{a}{4} \leq 1 \iff 0 \leq a \leq 4 \quad \dots \textcircled{1}$$

逆にこのとき、帰納的に

$$0 \leq x_n \leq 1 \implies 0 \leq x_{n+1} \leq 1$$

が示せるから十分でもある。よって、 $0 \leq a \leq 4$ が必要十分条件。

この条件の下で、 $x_1 \neq 0$ となる x_1 に対して、

$$x_1 = x_2$$

となるとき

$$x_1 = ax_1(1-x_1) \iff x_1\{1-a(1-x_1)\} = 0$$

$x_1 \neq 0$ であるから、 $x_1 = 1 - \frac{1}{a}$ 。

このような x_1 が存在するのは

$$0 < x_1 \leq 1 \iff 0 < 1 - \frac{1}{a} \leq 1 \iff 1 < a$$

① と合わせて、 $1 < a \leq 4$ 。

同様に $x_1 < x_2, x_3 = x_1$ となる x_1 が存在する条件は、

$$x_3 = ax_2(1-x_2) = a\{ax_1(1-x_1)\}\{1-ax_1(1-x_1)\}$$

であるから、 $x_1 = x_3$ の条件を考えて、

$$a\{ax_1(1-x_1)\}\{1-ax_1(1-x_1)\} = x_1$$

$$\iff a^2(1-x_1)(ax_1^2 - ax_1 + 1) = 1$$

$$\iff a^3x_1^3 - 2ax_1^2 - a^2(a+1)x_1 + a^2 - 1 = 0 \quad \dots \textcircled{2}$$

$x_1 = x_3$ は $x_1 = x_2 = x_3$ のものも含まれるので、 $x_1 = 1 - \frac{1}{a}$ を解に持つことは明らかで、

② は、

$$\{ax_1 - (a-1)\}\{a^2x_1^2 + (-a^2-a)x_1 + (a+1)\} = 0$$

と因数分解できる。よって、 $x_1 < x_2, x_1 = x_3$ なる解が存在するのは、

$a^2x_1^2 + (-a^2-a)x_1 + (a+1) = 0 \quad \dots \textcircled{3}$ が実数解をもつことが必要である。この方

程式の判別式を D とすると、 $D \geq 0$ から

$$D = \{-a(a+1)\}^2 - 4a^2(a+1) \geq 0$$

$$\iff a^2(a+1)(a-3) \geq 0$$

つまり、 $a \leq -1, a = 0, 3 \leq a \quad \dots \textcircled{4}$ が必要。

このとき、解の公式により、

$$x_1 = \frac{a^2 + a \pm \sqrt{a^2(a+1)(a-3)}}{2a^2} = \frac{a+1 \pm \sqrt{(a+1)(a-3)}}{2a} \quad \dots \textcircled{5}$$

となる。また、 $x_1 < x_2$ から ③ は $x_1 = 1 - \frac{1}{a}$ を解に持たない。

$$a^2 \left(1 - \frac{1}{a}\right)^2 + (-a^2-a) \left(1 - \frac{1}{a}\right) + a + 1 \neq 0 \iff a \neq 3 \quad \dots \textcircled{6}$$

①, ④, ⑥ より $3 < a \leq 4$ 。

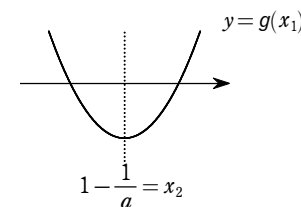
また、③ の左辺を $g(x_1)$ とおけば、

$3 < a$ で $g\left(1 - \frac{1}{a}\right) < 0$ となるから、

グラフより、 $x_1 < x_2$ を満たすのは、⑤ のうち

小さい方である。したがって、

$$x_1 = \frac{a+1 - \sqrt{(a+1)(a-3)}}{2a}$$



【別解】

(4) 空欄「モ」以降

$x_2 = f(x_1) = a(x_1 - x_1^2), x_3 = f(x_2) = a(x_2 - x_2^2)$ より、 $x_3 = x_1$ のとき、

$$\begin{cases} x_2 = a(x_1 - x_1^2) \\ x_1 = a(x_2 - x_2^2) \end{cases} \quad (x_1 < x_2)$$

$x_1 = s, x_2 = t$ とおくと、

$$\begin{cases} t = a(s - s^2) \quad \dots \textcircled{7} \\ s = a(t - t^2) \end{cases} \quad (s < t)$$

両辺の差をとると、

$$t - s = a\{-(t-s) + (t^2 - s^2)\}$$

$t - s (\neq 0)$ で割ると、

$$1 = a(-1 + s + t)$$

$a = 0$ と仮定すると、 $x_1 = x_2 = 0$ となり矛盾するから $a \neq 0$ であり、

$$s + t = 1 + \frac{1}{a} \quad \dots \textcircled{8}$$

さらに ⑦ より、 $t = as(1-s)$ であり、⑧ $\iff 1-s = t - \frac{1}{a}$ を代入すると、

$$t = as \left(t - \frac{1}{a} \right) \iff t = ast - s$$

したがって、

$$st = \frac{s+t}{a} = \frac{1}{a} + \frac{1}{a^2} \quad \dots \textcircled{9}$$

⑧, ⑨ より、 s, t は次の 2 次方程式の 2 解である。

$$X^2 - \left(1 + \frac{1}{a}\right)X + \left(\frac{1}{a} + \frac{1}{a^2}\right) = 0$$

$$\iff (aX)^2 - (a+1)(aX) + (a+1) = 0 \quad \dots \textcircled{10}$$

$s < t$ より、この 2 次方程式が異なる 2 つの実数解をもてばよいから、

$$(a+1)^2 - 4(a+1) = (a+1)(a-3) > 0 \quad \dots \textcircled{11}$$

ただし、 $0 < a \leq 4$ より ⑩ $\iff a > 3$ であるから、求める a の条件は、

$$3 < a \leq 4$$

また、⑩ を解くと、

$$aX = \frac{a+1 \pm \sqrt{(a+1)(a-3)}}{2} \iff X = \frac{a+1 \pm \sqrt{(a+1)(a-3)}}{2a}$$

となり、 $s < t$ であるから、

$$x_1 = s = \frac{a+1 - \sqrt{(a+1)(a-3)}}{2a}$$

Ⅲ
 (1) 1050 と 819 の最大公約数をユークリッドの互除法を用いて求めよ。
 (2) 2つの正の整数 $a, b (a < b)$ があり、 b を a で割った余りを r とする。 $r \neq 0$ のとき、 a, b の公約数 c は r の約数であることを示せ。
 (3) 2つの正の整数 $a, b (a < b)$ があり、それらの最大公約数を m とする。このとき、ある整数 s, t を用いて $m = sa + tb$ と表されることを示せ。

【解答】 (1) 21 (2) 略 (3) 略

(1) $1050 = 819 \cdot 1 + 231$
 $819 = 231 \cdot 3 + 126$
 $231 = 126 \cdot 1 + 105$
 $126 = 105 \cdot 1 + 21$
 $105 = 21 \cdot 5$

以上の計算により、1050 と 819 の最大公約数は 21 である。

(2) b を a で割ったときの商を q とすると、
 $b = aq + r \quad \dots \textcircled{1}$
 さらに、 a, b をその公約数 c で割ったときの商を a', b' とすると、
 $\textcircled{1} \iff cb' = ca'q + r \iff c(b' - a'q) = r$
 $b' - a'q$ は整数であるから、 c は r の約数である。

(3) 以下、2つの正の整数 u, v の最大公約数を (u, v) と表す。
 $x_0 = b, x_1 = a$ とおく。
 さらに自然数 n に対し、 x_{n-1} を x_n で割ったときの商を y_n 、余りを x_{n+1} と定める。

$$\begin{aligned} x_0 &= x_1 y_1 + x_2 & \dots \textcircled{2} \\ x_1 &= x_2 y_2 + x_3 \\ x_2 &= x_3 y_3 + x_4 \\ &\vdots \end{aligned}$$

ただし、余りは割る数よりも小さいから $x_1 > x_2 > x_3 > \dots$ となり、いずれは 0 になるので、そこで終了とする。

したがって、ある自然数 N に対して、
 $x_{N-3} = x_{N-2} y_{N-2} + x_{N-1} \quad \dots \textcircled{3}$
 $x_{N-2} = x_{N-1} y_{N-1} + x_N \quad \dots \textcircled{4}$
 $x_{N-1} = x_N y_N \quad \dots \textcircled{5}$

また (2) より、 $\textcircled{2}$ において x_2 は x_0, x_1 の任意の公約数で割り切れる。
 同様に、 x_0 は x_1, x_2 の任意の公約数で割り切れる。
 したがって、「 x_0, x_1 の公約数の集合」と「 x_1, x_2 の公約数の集合」は一致し、その中の最大の要素である最大公約数も一致するから、

$$m = (x_0, x_1) = (x_1, x_2)$$

以降も帰納的に考えると、
 $m = (x_0, x_1) = (x_1, x_2) = (x_2, x_3) = \dots = (x_{N-1}, x_N)$
 となる。

$\textcircled{5}$ において、 x_{N-1}, x_N を m で割ったときの商を $k, l (k, l$ は互いに素) とすると、
 $\textcircled{5} \iff mk = mly_N \iff \frac{k}{l} = y_N$

k, l は互いに素であるから、 $l=1$ であることが分かり $x_N = m$ となる。
 したがって、 $\textcircled{4}$ より、

$$m = x_N = x_{N-2} - x_{N-1} y_{N-1}$$

さらに、 $\textcircled{3} \iff x_{N-1} = x_{N-3} - x_{N-2} y_{N-2}$ を代入して、

$$\begin{aligned} m &= x_{N-2} - (x_{N-3} - x_{N-2} y_{N-2}) y_{N-1} \\ &= x_{N-3} \cdot (-y_{N-1}) + x_{N-2} (1 + y_{N-2} y_{N-1}) \end{aligned}$$

この操作を $\textcircled{2}$ までさかのぼって行くと、
 $m = x_0 P(y_1, y_2, \dots, y_{N-1}) + x_1 Q(y_1, y_2, \dots, y_{N-1})$
 $= bP(y_1, y_2, \dots, y_{N-1}) + aQ(y_1, y_2, \dots, y_{N-1})$

ただし、 $P(y_1, y_2, \dots, y_{N-1}), Q(y_1, y_2, \dots, y_{N-1})$ は y_1, y_2, \dots, y_{N-1} についての整数係数の多項式であり、これらは整数であるから、
 $t = P(y_1, y_2, \dots, y_{N-1}), \quad s = Q(y_1, y_2, \dots, y_{N-1})$
 とおくと、 $m = sa + tb$ と表すことができる。

【講評】

Ⅰ (小問集合 複素数平面, 場合の数, 媒介変数表示された曲線)
 (1) 正7角形絡みの問題で授業でも扱っていた典型問題。
 (3) 図がかいてあるので、扱いやすかっただろう。
 しっかり得点したいところだ。

Ⅱ (漸化式と極限)
 (1) から順に解いていく問題だが、(2) よりも (3) の方が扱いやすい。うまく立ち回って部分点を稼いでほしい。YMS としては (4) が他の大学別対策でやった問題でありここを取りたかった。

Ⅲ (整数, ユークリッドの互除法)
 証明問題も典型問題。流れを知っていれば完答できるだろう。この問題の出来は合否を分けただろう。

 レベル高いが典型問題も多く、実力が反映されやすいセットだった。数学を得意としているならば 70% を超えてくるだろう。合格ラインとして、55% は確保したい。

二次で勝つならYMSの

2/10日
17:45 ~ 19:15頃
順天堂
(一般A・B・前期・地域枠)

対策
内容

二次試験の要点解説

個人面接対策

二次の
ポイント

順天堂大学の個人面接では、20 ~ 30分の面接の中で、いかに自分自身をアピールできるかがカギとなります。YMSでは、より効果的なアピールができるよう、話す内容から持参する資料の準備まで丁寧に指導します。

【申込方法】・一次試験合格者が対象です。
 ・受付開始は各大学ともに一次の結果発表以降となります。
 ・お電話(03-3370-0410)でご予約下さい。

二次試験対策

申し込み受付中です。詳細はYMSホームページをご覧ください。お電話にてお問い合わせください。